

2008 年度 事業報告

2008 年度の基本方針に対する主要な成果と課題

活動：加盟団体のニーズを踏まえた事業立案

(1) 加盟団体の意見・ニーズを踏まえた中期方針(3年間)を策定する

2009～2011 年度の中期計画を策定し、関西発の国際協力の発信・発進拠点をめざして「国際協力・NGO の活動をわかりやすく伝える」ことを今後 3 年間の最優先課題としました。

策定にあたっては、これまでの活動をふりかえり、理事会や提言専門委員会での協議を重ね、また加盟団体が集まるネットワーク・ミーティングで意見を募りました。中期計画の策定を達成しただけではなく、加盟団体の意見やニーズを確認する機会となりました。

(2) スキルアップのための学習会を開催する

活動を安定的に行うための持続的な資金の調達、多くの NGO にとっても課題となっています。2008 年度は加盟団体スタッフ有志での情報交換や、NGO スタッフ経験者を講師として招き、企業への企画の提案のノウハウを学ぶなど、資金調達に向けた勉強会を行いました。一方でこうした学習会に興味・関心を持ちながらも、それぞれの業務が多忙で時間をとれないことも多く、今後は運営の工夫が必要です。

組織基盤の強化：受託事業に過度に依存せず 職員の労働環境整備を進める為に、自主財源 の確保に取り組む

2008 年度は、自主財源のなかでも、入会キャンペーンや政策提言指定寄付の呼びかけなどの会費、寄付収入の増加に向けた取り組みを行いました。一方、実際の自主財源増につなげることができませんでした。一方で、2009 年度からの賛助会員制度の立ち上げを決定するなど、自主財源の確保に向けた基盤の整備ができました。今後はこうした基盤を利用し、成果をあげていく必要があります。

1. ネットワーク

NGO 間の連携や協力を促進することで、個々の NGO の力を高めていきます。



ネットワーク・ミーティング

加盟団体が定期的に集まり、情報・意見交換や経験共有を行う場として実施しています。2008 年度は計 4 回開催し、加盟団体よりのべ 34 名の参加がありました。また、オブザーバーとして加盟団体以外の 6 名の参加がありました。加盟団体スタッフを講師として NGO の中期ビジョン作成について情報交換を行ったり、北海道・洞爺湖での G8 サミットでの NGO のネットワークで中心的な役割を担った方をお招きし、他のネットワーク NGO の活動について経験共有を行うなど、他の団体の活動を知る機会となりました。

また、各回、学習会のほかに中期計画作成に向けたワークショップをおこなったことで、加盟団体のニーズを聞く機会となり、中期計画に反映させることができました。

加盟団体への情報提供

加盟団体へ向けて、関西 NGO 協議会の活動状況の報告や各種研修・助成金等の案内などを随時メールニュースで発信しました。

年間のメールニュース発信数はのべ 155 件で、各種研修・助成金等の案内は積極的に行ったものの、関西 NGO 協議会の各事業の報告を徹底することができませんでした。2009 年度は各事業の報告もこまめに行っていきます。

2. 開発教育・啓発

途上国の人々が抱えている問題が私たちの生活と深くつながっていることを認識し、お互いが学びあうことができるような気づきの機会を提供します。



講師派遣・講師紹介

加盟団体スタッフや個人会員の協力を得て大学での講義を開講しています。NGO スタッフが国際協力の現状をワークショップや映像を取り入れて行う講義は、学生に既成の講義とは異なるインパクトを与えて好評でした。今後も学生の関心の多様化、理解力を考慮したプログラムの立案が課題です。

今年度の実績：

大阪薫英女子短期大学【多言語多文化：受講生 32 名】 関西学院大学【キリスト教と社会 A・B：受講生 30 名】 龍谷大学【国際 NGO 論：受講生 45 名】 帝塚山学院大学【NPO/NGO 論：受講生 4 名】 京都光華女子大学【NPO/NGO 入門：受講生 25 名】
受講生総数 136 名

広報・情報発信

加盟団体への広報協力の一環として、関西 NGO 協議会のウェブサイトを通じて、加盟団体が主催するイベント・セミナー・スタディツアーの情報や人材募集情報を掲載しています。2008 年度のアクセス数は約 23000 アクセスでした。また、関西 NGO 協議会の事業については、ポータルサイトの「イーココロ」や「Yahoo!ボランティア」からも情報発信も行い、それらを通じた問い合わせもありました。

DVD「私たちの暮らしと世界のつながり」の頒布

貧困や環境問題といったグローバル化が引き起こす問題と私たちの暮らしとのつながりを知ってもらうために、2007年度にパナソニック株式会社との協働でDVD「私たちの暮らしと世界のつながり」を作成し、頒布しています。

2008年度は、DVDについてより幅広い方々に知ってもらうために、「国際協力」だけでなく「環境」や「食」の問題に興味のある層への広報を積極的に行い、130枚を頒布しました。



写真パネル貸し出し

より多くの方に関西地域のNGOの活動について知っていただくために、加盟団体から写真データを提供していただき作成した写真パネルの貸し出しを行っています。2008年度は、下記2団体に、写真パネルの貸し出しを行いました。

貸し出し実績：
(特活)国際子ども権利センター大阪事務所
(子どもの権利条約フォーラムinみえ 2008年11月23~24日 三重県庁 来場者のべ1,200名)
NGO 自敬寺
(淀川ひろば 2009年3月20日~22日 旧淀川区役所 来場者約5,000名)

3. 政策提言

よりよい国際協力を実現するため、政府機関等との対話や広く社会に対しての提言を行います。



NGO・外務省定期協議

NGO・外務省定期協議は、連携推進委員会とODA政策協議会という2つの会議から成り立っています。連携推進委員会は、ODAによるNGO支援策など実務的な話し合いを行っており、2008年度は外務省が進めている「NGOとの戦略的連携に向けた5ヵ年計画」についての協議が活発に行われ、この計画を推進するためのタスクチームの立ち上げと意見交換会の開催が決定しました。

ODA政策協議会は、外務省が関わるODA政策について外務省及びNGO双方が意見・情報交換を行うことを通じて、より良いODAのあり方を共に考え、政策の透明性を高めることを目的としています。2008年度は3度の会合を開催し、のべ87名のNGO関係者と市民が参加しました。特に第3回ODA政策協議会は、地域開催として(財)神戸YMCAで開催され、関西地域のNGOからの議題提案を行いました。

NGO・JICA協議会

(事務局業務受託：(特活)国際協力NGOセンター)

NGOとJICAの対話を通じて、JICA業務の透明性・説明責任の向上を図るとともに、対等なパートナーシップを実現することを目的としています。

2008年10月のJICA・JBIC統合を機にNGO・JICA協議会も一元化し、より透明性の高い運営体制を構築しました。2008年度は2度の会合を開催

し、のべ 36 名の NGO 関係者が参加しました。主に、新 JICA の活動や組織に関する内容のほか、JICA による寄附金事業のあり方や新設されるゆうちょ国際ボランティア貯金の制度設計について話し合いました。



シンポジウム「G8 首脳に NGO の声は届いたか？」

（共催：（特活）日本国際ボランティアセンター（JVC）、大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野 協賛：（特活）アユス＝仏教国際協力ネットワーク）

2008 年 10 月 11 日（土）に大阪市立大学文化交流センターにて 2008G8 サミット NGO フォーラムを担った NGO 関係者 3 名をパネリストに招き、活動報告とそこから得た成果や課題について聞きました。NGO がネットワークを組む事で持つインパクトや、今後の市民活動に与える示唆を考える機会となりました。56 名が参加し、「実際に活動した人の生の声から、取り組みの姿勢が分かった」と好評でした。

「ODA 改革パブリックフォーラム」の開催

（（特活）国際協力 NGO センター、（特活）名古屋 NGO センターとの協働）

ODA 改革の一つと位置づけられる JICA・JBIC 統合による新 JICA 発足に合わせ、これからの ODA 改革について広く議論することを目的に 3 つの分科会を含むパブリックフォーラムを開催しました。関西 NGO 協議会では、3 つの分科会のうち「開発の主役は誰か？～「住民」参加と「市民」参加」を担当しました。パブリックフォーラム全体で約 150 名が参加しました。

4. 国際協力・NGO に関する相談

より多くの人びとが NGO 活動に参加できるよう、情報提供を行います



相談、問い合わせ対応

（受託：外務省委嘱「平成 20（2008）年度 NGO 相談員」）

国際協力や NGO に関心のある市民の方や NGO 関係者の方からの質問・相談に対応しています。「NGO でボランティアをしてみたい」という方には、関心を持っていることなどをじっくりうかがって団体を紹介したり、NGO 関係者の方からの組織運営やプロジェクト実施に関する相談には、必要に応じて、当会や当会加盟団体の事例なども紹介しつつ、アドバイスしています。また、セミナーなどでの講演やイベント会場にブースを設置して相談に対応する「出張サービス」も行っています。2008 年度は 404 件の相談が寄せられました。

アドバイザー派遣（受託：JICA 地球ひろば）

職員がアドバイザーとしてアユス関西に派遣され、「参加者・担い手拡大の為に広報計画立案」への支援を行いました。具体的には、名簿データベースの整理と活動実績による現状分析を踏まえ、今後 3 年間で構築を目指す運営体制とそのため必要な資金調達計画を策定する過程をサポートしました。

「フィールドワーク実習」支援のための調査

(受託：龍谷大学経済学部)

経済学部専攻科目「フィールドワーク実習」企画・運営のための事前調査を実施しました。この科目は学生が NGO・龍谷大学教員等による海外フィールドワークに参加し、事前学習・フィールドワーク・事後学習を通して学びを深めるものです。事前調査では、他大学が既に実施している海外フィールドワーク科目の概要や特徴、また NGO によるスタディツアーの概要などをまとめた上で、龍谷大学が今後実施していく科目の企画・運営面への提言を行いました。

5. 担い手育成

次世代の NGO 活動の担い手が育つよう、学びの機会を提供します。



実践的参加型コミュニティ開発研修コース

(受託：JICA 大阪)

アルゼンチン、ニジェール、パプアニューギニア、東ティモールの4カ国から計5名の NGO スタッフ・地方自治体スタッフを研修員として受け入れました。6週間にわたる研修では、コミュニティ開発に関わる外部者が持つべき態度やコミュニケーションスキルを一つの軸に、近代化によって日本社会がどう変化し、それがコミュニティにどう影響したかという視点をもう一つの軸にして、研修参加者の活動や日本のコミュニティ開発の事例を考え抜きました。日本の NGO/NPO 関係者も4名が国内参加者として、ケーススタディ、フィールドワーク、ディスカッションなどを通じた学び合いを共にしました。

危機管理セミナー

(受託：立正佼成会一食平和基金、(特活)国際協力 NGO センター)

「組織の危機・不祥事を NGO はどう伝えるか」というタイトルで、企業や NGO で実際に起きた事例を取り上げ、根底にある組織倫理・モラルについて考えました。NGO12団体15名の参加があり、各団体が抱えている課題やそれぞれの問題意識を率直に話し合いました。各団体が取り組むべき危機管理/危機管理コミュニケーションの課題について明確化することにつながったといえます。

NGO 能力強化支援制度説明会

(受託：(特活)国際協力 NGO センター)

NGO を対象とした研修や支援制度は、外務省が実施しているもの、JICA が実施しているものなどいろいろあります。「それぞれの特徴が把握しきれず、どれを選べばよいかわからない」という NGO を対象に、様々な研修・支援制度をまとめて紹介しました。NGO 関係者17名が参加し、「いろいろある制度や研修を整理して把握することができた」と好評でした。





セーフ・トラベル・セミナー

(共催：株式会社マイチケット、早稲田大学早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター)

毎年数多く実施される NGO や大学の海外スタディツアーでは、その目的地と感染症発生地域が重なることも珍しいことではありません。いったん事故が発生すると、ツアーの企画担当者は事故処理の窓口として難しい対応を迫られます。そこで、スタディツアーの企画担当者を対象に、ツアーの危機管理について学ぶセミナーを開催しています。2008 年度は第 2 回セミナーを開催し、大阪会場では大学・NGO 関係者約 30 名が参加しました。また、セミナー以外にも、スタディツアー経験交流会や地域別情報交換会(バンングラデシュ)を行いました。

「変えよう ニッポンの国際協力～ODA への政策提言入門講座」

(共催：ADB 京都総会 NGO ネットワーク、アユス仏教国際協力ネットワーク関西 協賛：アユス仏教国際協力ネットワーク関西 助成：(財)京都市国際交流協会(セミナー開催)(宗)真如苑(報告書作成))

より良い日本の ODA・国際協力の実現に向けて、そのあり方を正しく理解し、参加していく人を育てるための 5 回連続セミナーを開催しました。のべ 95 名の参加者によるアンケートでは理解度・満足度ともに高く、ODA に関する基礎的な知識や現状について、十分に伝える事ができました。また、G8 サミット開催時期に合わせてセミナーを開催した為、G8 関連のウェブサイト等にセミナーの内容や趣旨が紹介され、幅広い層に ODA への関心を喚起することができました。

インターン・ボランティア受け入れ

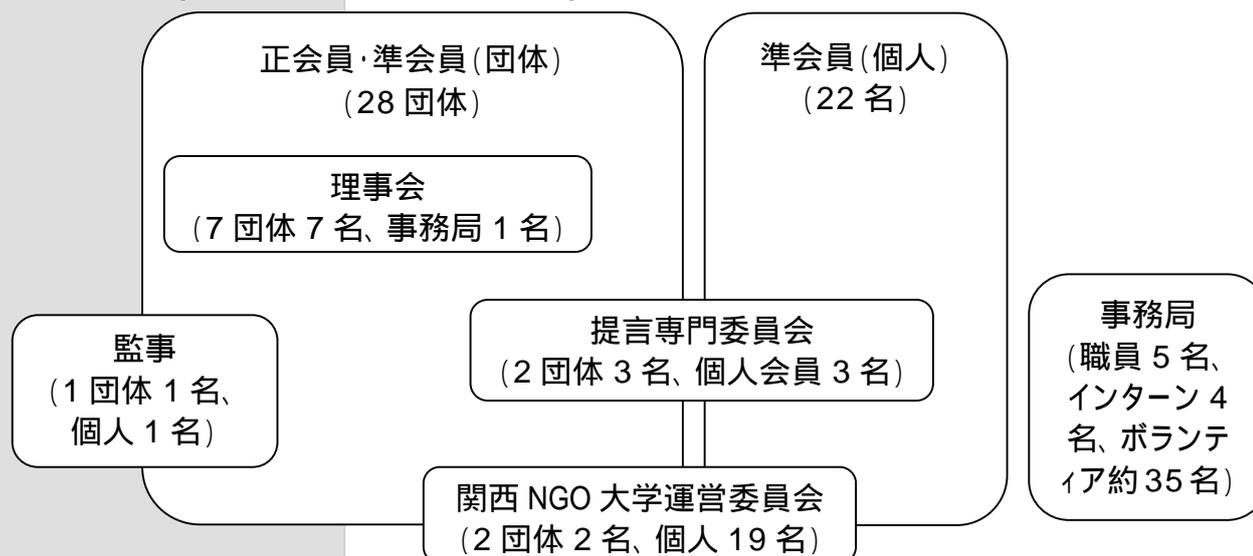
NGO・国際協力活動の担い手をめざす方を対象に、1999 年よりインターンを受け入れています。2008 年度は大学生 4 名のインターンを受け入れました。また、2008 年度のボランティア参加者はのべ 35 名で、社会人からのボランティアの問い合わせが多くなりました。今後は、こうしたインターン・ボランティアのアイデアを活かせる、また継続して活動に参加できるような環境作りを行っていきたいと考えています。

第 22 期関西 NGO 大学

(助成：パナソニック株式会社)

関西 NGO 大学は、加盟団体の協力を促進し、国際協力に関する知識の普及・啓発を図ることで NGO 活動に関わる人材育成を行うことを目的に開催し、今年度で 22 期を迎えました。今回は「世界につながる私の足元」をテーマに 6 回の講座を行い、のべ 171 名が参加しました。講師として過去の関西 NGO 大学修了者を招くなど、修了者とのつながりも継続しています。

組織 (2008年3月31日現在)



理事会

| | | |
|-------|-----------------------|--------|
| 代表理事 | (財) PHD 協会 | 藤野 達也 |
| 副代表理事 | (特活) AM ネット | 石中 英司 |
| 理事 | (社) アジア協会アジア友の会 | 田中 壽美子 |
| 理事 | (特活) アジアボランティアセンター | 間野 千里 |
| 理事 | (財) 大阪 YMCA | 田中 眞一 |
| 理事 | (財) 大阪 YWCA | 谷川 いづみ |
| 理事 | 日本国際飢餓対策機構 | 山本 和弘 |
| 理事 | 事務局長 | 榛木 恵子 |
| 監事 | アーユス関西 = 仏教国際協力ネットワーク | 服部 隆志 |
| 監事 | 大阪市立大学大学院創造都市研究科 | 柏木 宏 |

提言専門委員会

| | |
|-------|-----------------|
| 折居 徳正 | ((社) 日本国際民間協力会) |
| 神田 浩史 | ((特活) AM ネット) |
| 三輪 敦子 | ((特活) AM ネット) |
| 岡島 克樹 | (個人会員) |
| 加藤 良太 | (個人会員) |
| 中田 豊一 | (個人会員) |

第22期関西 NGO 大学運営委員

| | |
|------|---|
| 校長 | 藤野 達也 ((財) PHD 協会) |
| 副校長 | 浜本 裕子 ((財) 大阪 YMCA) |
| 運営委員 | 荒川 共生、稲垣 文拓、稲永 学、 岡 法子、佐久間 量子、田中 綾、 篁 正康、土屋 佳寿子、中山 晋 吾、藤岡 直子、古厩 早苗、松井 悠歌、三浦 弘志、宮川 保喜、向 井 一朗、山下 奈美、吉富 久美 子、藤井 久美子、山本 愛 |

関西 NGO 協議会 会員一覧(2008年3月現在、*は2008年度新入会)

正会員(21団体)

京都地区

(特活) アクセス-共生社会をめざす地球市民の会
(ACCE)
(財) 京都 YMCA
(特活) テラ・ルネッサンス
(財) 日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス
(社) 日本国際民間協力会(NICCO)

大阪地区

(社) アジア協会アジア友の会(JAFS)
(特活) アジアボランティアセンター(AVC)
(社) アムネスティインターナショナル日本 関西連絡会
アークス関西=仏教国際協力ネットワーク
(特活) AM ネット
(財) 大阪 YMCA
(財) 大阪 YWCA
(社) 日本キリスト教海外医療協力会関西事務局
(JOCS)

日本国際飢餓対策機構(JIFH)

認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク(GEN)

奈良地区

(財) 奈良 YMCA

神戸・阪神地区

(特活) アジア眼科医療協力会(AOCA)
(特活) CODE 海外災害援助市民センター
(財) 神戸学生青年センター
(財) 神戸 YMCA
(財) PHD 協会

準会員(7団体、22名)

京都地区

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
*(特活) JIPPO

大阪地区

(特活) インドマイトリの会
ウータン・森と生活を考える会
シャプラニール地域連絡会大阪
パレスチナの平和を考える会
*(財) アジア・太平洋人権情報センター

尾関 葉子(DADA-アフリカの開発のための対話プロジェクト)

新田 和宏(地球市民教育総合研究所)

西谷 文和(イラクの子どもを救う会)

伊藤 公男(横浜市職員)

中田 豊一(参加型開発研究所)

山本 愛(元(財)とよなか国際交流協会)

山田 和生(株式会社マイチケット)

加藤 良太(同志社大学大学院/ODA改革ネットワーク)

岡島 克樹(大阪大谷大学人間社会学部)

新田 幸夫(アイキューゴー-途上国の人と共に-)

山本 奈美(コーポレート・ヨーロッパ・オブザーバトリー)

喜多幡 佳秀(ATTAC 関西グループ)

黒河内 繁美(コープ自然派ピュア大阪)

*中尾 秀一((財)アジア福祉教育財団 難民事業本部関西支部)

*梅田 章二(大阪中央法律事務所)

*浜田 進士(大阪聖和大学)

*藤井 浩子(国際子ども権利センター大阪事務所)

*秦 辰也(近畿大学文芸学部)

*君島 東彦(立命館大学国際関係学部)

*奥本 京子(大阪女学院大学国際・英語学部)

*石田 祐子(JICA ジュニア専門員)

*他1名

ご寄付(2008年度)

(宗) 真如苑

日本基督教団 大阪聖和教会

(特活) サパ=西アフリカの人達を支援する会

第22期関西 NGO 大学運営委員会

個人13名